

大都市圏の柔道整復施術所における あん摩マッサージ指圧療法、 鍼灸療法等の実態に関する調査研究

—その1 主として単純集計による検討— (後編)

矢野 忠 明治国際医療大学鍼灸学部
安野富美子 東京有明医療大学保健医療学部
藤井亮輔 筑波技術大学保健科学部
近藤 宏 筑波技術大学保健科学部
鍋田智之 森ノ宮医療大学保健医療学部

I

はじめに

1998年の福岡地裁の判決¹⁾を契機に、柔道整復師(以下、柔整師)および、はり師、きゅう師(以下、鍼灸師)の養成施設は急速に増えた^{2),3)}。

これまでの調査で、鍼灸療法の受療率は年々減少しており⁴⁻⁶⁾、しかも、鍼灸療法やあん摩マッサージ指圧(以下、あま指)療法の受療場所が鍼灸院・あま指院から柔整院・鍼灸柔整院へと移動していることが明らかにされた^{7),8)}。

そこで、柔整院・鍼灸柔整院で行われているあま指およびはり・きゅう(以下、あはき)療法などの実態調査を実施することにした。その第一段階として、東京都と大阪府の大都市圏で開業している柔整院2,367カ所に調査票を郵送し、476件の回答を得た。そのうち、現在も営業していると回答した施術所は466カ所であった。調査方法の詳細は前号を参照いただきたい。

前号では、施術所の営業形態や開設年限、開設者の年代や資格、雇用している施術者な

どの項目に関する調査結果を報告した。

今月号では引き続き、同調査の結果を掲載する。なお、本稿は柔整院と鍼灸柔整院とを一緒にした単純集計についての報告となっている。柔整院と鍼灸柔整院の比較については、別稿(2018年1月号以降に掲載予定)で紹介する。

III (前号の続き)

結果とその意味

8. 1日の受療者(患者)数

調査票記載前日の各種療法の受療者数について尋ねたところ、表12の該当者欄に示すように最も多く利用された療法是柔道整復術(459カ所)で、次いで鍼灸療法(312カ所)、カイロプラクティック・整体術(以下、カイロ・整体、210カ所)の順であった。

次に、1日の受療者数をみると、柔道整復術は、中央値が20人、9人以下が22.9%(105人)、10~19人が22.2%(102人)、20人以上が49.2%(226人)で、20人以上が5割近くを占めた。一方、鍼灸療法は、中央値が5人、

表12 各種療法別の1日の受療者(患者)数

療 法	該当者	0~9人	10~19人	20~29人	30~39人	40~49人	50人以上	無回答	平均値	最大値	中央値
柔整	459	105	102	96	56	35	39	26	22.4	146	20
	%	22.9	22.2	20.9	12.2	7.6	8.5	5.7			
あマ指	128	64	17	4	3	4	1	35	8.3	50	4
	%	50	13.3	3.1	2.3	3.1	0.8	27.3			
鍼灸	312	192	63	12	4	1	0	40	6.6	48	5
	%	61.5	20.2	3.8	1.3	0.3	0	12.8			
カイロ・ 整体	210	96	27	14	6	2	1	64	8.6	50	5
	%	45.7	12.9	6.7	2.9	1	0.5	30.5			
リラク	85	42	8	0	5	0	0	30	6.8	39	3
	%	49.4	9.4	0	5.9	0	0	35.3			

受療者数区分の数字は該当者数であり、平均値・最大値・中央値の数値は1日の患者数を示す。

柔整：柔道整復術、あマ指：あん摩マッサージ指圧療法、鍼灸：鍼灸療法、カイロ・整体：カイロプラクティック・整体術、リラク：アロマセラピーや手もみなどのリラクゼーション（以下、表17まで同様）

9人以下が61.5%（192カ所）、10~19人が20.2%（63カ所）、20人以上が5.4%（17カ所）で、9人以下が6割弱を占めた。カイロ・整体は、中央値が5人、9人以下が45.7%（96カ所）、10~19人が12.9%（27カ所）、20人以上が11%（23カ所）で、9人以下が4割5分弱を占めた。

このように、1日の受療者数を中央値と比較すると、柔道整復術が圧倒的に多く、ほかの療法の5倍以上であった。施術所での主な療法が柔道整復術であることから当然の結果であろう。

一方、鍼灸療法の1日の受療者数は、中央値で5人であった。藤井らの調査でも、中央値が5人で同じであったが、鍼灸院、鍼灸マッサージ院、鍼灸柔整院を含むものであって、鍼灸院単独の調査ではなかった⁹⁾。ということは鍼灸院だけであれば、1日の受療者数は5人より少なくなるであろう。さらに藤井らの報告¹⁰⁾によると、鍼灸院の月間患者数（延べ人数）の中央値は76人で、そこから推定される1日の患者数の中央値は3~4人となる。

あマ指についても同様で、1日の受療者数は中央値で4人であった。藤井らの報告¹⁰⁾では、あマ指の月間患者数の中央値は60人で、そこから推定される1日の患者数の中央値は

2~3人となる。

このように、鍼灸院、あマ指院における受療者数は、柔整院・鍼灸柔整院のそれよりも少ないということである。すなわち、鍼灸療法、あマ指療法の受療者が柔整院・鍼灸柔整院へ流れていることを示唆するものである。このことは昨年、鍼灸療法やあマ指療法の受療場所を尋ねた調査結果（鍼灸療法については鍼灸院46.7%、柔整院+鍼灸柔整院53.4%、あマ指療法については、あマ指院+鍼灸あマ指院61%、柔整院+鍼灸柔整院22%）と符合するものであった^{7),8)}。

いずれにしても鍼灸院、あマ指院の業務が、鍼灸療法、あマ指療法のみであることからいって、受療者が柔整院・鍼灸柔整院より少ないことは極めて深刻な現状であるといえよう。

9. 各種療法の1回当たりの施術料

各種療法の1回当たりの施術料を尋ねたところ、表13に示すように平均・中央値の施術料で最も安価であったのは、柔道整復術の744円・500円であった。それに対して、ほかの療法の平均はいずれも2,000円以上であり、中央値でも1,500円以上であった。なお、中央値では鍼灸療法が1,500円に対して、あ

表 13 各種療法の1回当たりの施術料

療 法	該 当 者	1,000 円未満	1,000 ～ 1,999 円	2,000 ～ 2,999 円	3,000 ～ 3,999 円	4,000 ～ 4,999 円	5,000 ～ 5,999 円	6,000 ～ 6,999 円	7,000 ～ 7,999 円	8,000 ～ 8,999 円	9,000 ～ 9,999 円	10,000 円以上	無 回 答	平 均 値	中 央 値
柔 整	459	331	79	6	5	1	1	0	2	0	0	1	33	743.6	500
	%	72.1	17.2	1.3	1.1	0.2	0.2	0	0.4	0	0	0.2	7.2		
あま指	128	12	21	19	18	8	6	6	0	0	0	0	38	2,537.9	2,080
	%	9.4	16.4	14.8	14.1	6.3	4.7	4.7	0	0	0	0	29.7		
鍼灸	312	55	104	46	39	20	14	7	1	0	0	2	24	2,115.7	1,500
	%	17.6	33.3	14.7	12.5	6.4	4.5	2.2	0.3	0	0	0.6	7.7		
カイロ・ 整体	210	19	37	23	31	17	19	9	1	1	0	2	51	2,921.4	3,000
	%	9.0	17.6	11	14.8	8.1	9.0	4.3	0.5	0.5	0	1	24.3		
リラク	85	5	21	9	14	8	4	2	0	0	0	0	22	2,549.6	2,160
	%	5.9	24.7	10.6	16.5	9.4	4.7	2.4	0	0	0	0	25.9		

施術料区分の数字は該当者数であり、平均値・最大値・中央値の数値は1回の施術料を示す。

マ指が2,080円、カイロ・整体術が3,000円、リラクセーションが2,160円であり、鍼灸療法が最も低かった。

次に、施術料別に各療法の順序をみると、1,000円未満では柔道整復術72.1%（331カ所）>鍼灸療法17.6%>あま指療法9.4%>カイロ・整体術9.0%>リラクセーション5.9%の順であり、2,000円未満（1,000円未満も含めて）では柔道整復術89.3%>鍼灸療法51.0%>リラクセーション30.6%>カイロ・整体術26.7%>あま指療法25.8%の順であった。一方、3,000円以上5,000円未満ではリラクセーション25.9%>カイロ・整体術22.9%>あま指療法20.3%>鍼灸療法18.9%>柔道整復術1.3%の順であり、5,000円以上ではカイロ・整体術15.2%>あま指療法9.4%>鍼灸療法7.7%>リラクセーション7.1%>柔道整復術0.9%の順であった。

施術料では、柔道整復術が最も低額であった。柔整の施術料は基本的に療養費払いであることから、自由診療を主とする他の療法より低額であったことは当然の結果である。

では、自由診療を主とする療法内での施術料別割合を比較すると、低額と思われる2,000円未満では、鍼灸療法が5割を占め、あま指療法やカイロ・整体術、リラクセーションよ

りもその割合は大きかった。

なぜ、柔整院・鍼灸柔整院での鍼灸療法の施術料が低額に偏っているのか、その理由は明らかではないが、施術時間が短いことによるのではないかと考えられる。施術料が施術時間で設定されているとすれば、必然的に低額になる。問題は、安価な施術料と施術内容が一体となって、国民の鍼灸療法に対する認識を形成するようなことになれば、鍼灸療法の社会的評価をも左右することになりかねないことである。

いずれにしても、そうした懸念を払拭するには、柔整院・鍼灸柔整院における鍼灸療法やあま指療法の施術内容、方法などの実態を詳細にすることである。

10. 導入した各種療法とその理由

1) 各種療法について

導入した療法とその理由について、複数回答で尋ねた。表14は導入した療法で、最も多かったのはカイロ・整体術117カ所、次に柔道整復術94カ所、鍼灸療法80カ所、アロマセラピーや手もみなどのリラクセーション47カ所の順であった。

2) 導入した理由について

各種療法を導入した理由について尋ねたと

表 14 導入した療法について

療 法	該当者	もともと行っている	導入した
柔整	459	365	94
	%	79.5	20.5
あま指	128	79	49
	%	61.7	38.3
鍼灸	312	232	80
	%	74.4	25.6
カイロ・整体	210	93	117
	%	44.3	55.7
リラク	85	38	47
	%	44.7	55.3

表 15 療法を導入した理由について

療 法	該当者	患者の要望があったから	治療の幅を広げたかったから	収益を上げたかったから	患者の医療満足度を高めたかったから	その他	無回答
柔整	94	8	37	25	28	3	42
	%	8.5	39.4	26.7	29.8	3.2	44.7
あま指	49	20	17	13	14	1	13
	%	40.8	34.7	26.5	28.6	2.0	26.5
鍼灸	80	18	35	16	21	3	29
	%	22.5	43.8	20.0	26.3	3.8	36.3
カイロ・整体	117	10	68	33	46	3	30
	%	8.5	58.1	28.2	39.3	2.6	25.6
リラク	47	15	12	23	12	0	15
	%	31.9	25.5	48.9	25.5	0.0	31.9

ころ、表15に示すように「患者の要望」で最も多かったのは、あま指療法（40.8%）で、次にリラクセーション（31.9%）であった。「治療の幅を広げたかった」で最も多かったのはカイロ・整体（58.1%）で、次に鍼灸療法（43.8%）、柔道整復術（39.4%）と続いた。また、収益の観点から最も多かったのはリラクセーション（48.9%）であった。患者満足度の観点から最も多かったのはカイロ・整体術（39.3%）であり、ほかの療法もすべて25%以上であった。

以上のことから、ほかの療法を導入することで治療の幅を広げ、患者の要望に応えるとともに患者の満足度を高めることで収益を上げようとする取り組みが読み取れた。こうした経営戦略は、収益において鍼灸院・あま指

院より柔整院・鍼灸柔整院のほうが大きいことと無関係ではない。それは藤井らの調査結果で明らかのように、年収額において柔整院・鍼灸柔整院のほうが、鍼灸院、あま指院より大きかったことからうかがえる^{9),10)}。

11. 導入した療法の効果

導入した療法の効果について、受療者数と収益の観点から尋ねてみた。

受療者数が「増えた」と評価した療法は、あま指療法（38.9%）以外ではいずれも50%以上（53.8～56.9%）であった（表16）。最も多かったのは鍼灸療法であったが、ほかの療法とは僅差であった。

収益が「増えた」と評価した療法はすべてであり、いずれも50%以上（50.0～67.8%）で

表16 導入後の受療者数の変化について

導入した療法	該当者	増えた	変化なし	減った	無回答
柔整	52	28	17	4	3
	%	53.8	32.7	7.7	5.8
あま指	36	14	20	2	0
	%	38.9	55.6	5.6	0
鍼灸	51	29	20	2	0
	%	56.9	39.2	3.9	0
カイロ・整体	87	48	28	8	3
	%	55.2	32.2	9.2	3.4
リラク	32	18	10	1	3
	%	56.3	31.3	3.1	9.4

表17 導入後の収益の変化について

導入した療法	該当者	増えた	変化なし	減った	無回答
柔整	52	30	16	4	2
	%	57.7	30.8	7.7	3.8
あま指	36	18	12	3	3
	%	50.0	33.3	8.3	8.3
鍼灸	51	30	17	2	2
	%	58.8	33.3	3.9	3.9
カイロ・整体	87	59	20	4	4
	%	67.8	23.0	4.6	4.6
リラク	32	21	7	1	3
	%	65.6	21.9	3.1	9.4

あった(表17)。最も多かったのはカイロ・整体であった。

受療者数と収益の両面から評価すると、カイロ・整体およびリラクセッションの導入が鍼灸療法よりも効果的のように思われるが、それほど差があるわけではない。しかし、施術料においては鍼灸療法が安いことを考慮すれば、柔整院・鍼灸柔整院でのカイロ・整体およびリラクセッションの導入は経営上、有益であるように思われた。いずれにしても、受療者の病態への対応、ニーズや要望に応えるために柔道整復術以外の療法を導入した経営努力が報われているものと思われた。

12. 現在の施術料収入に対する満足度と経営状態に対する評価

1) 施術料収入に対する満足度について

施術料収入に対する満足度を尋ねたところ、

表18に示すように「おおいに満足」が8カ所(1.7%)と少なく、「まあ満足である」が64カ所(13.7%)であった。「まあ満足である」以上を「満足」とすれば、収入で満足している施術所は72カ所(15.5%)であった。一方、「あまり満足していない」が157カ所(33.7%)、「まったく満足していない」が195カ所(41.8%)であった。「あまり満足していない」以下を「不満足」とすれば、不満足な施術所は352カ所(75.5%)で7割以上であった。

2) 現在の経営状態の評価について

経営状態について尋ねたところ、表19に示すように「おおいに順調」が8カ所(1.7%)と少なく、「まあ順調である」が122カ所(26.2%)であった。「まあ順調である」以上を「順調」とすれば、経営状態が順調である

表18 現在の施術料収入に対する満足度について

該当者	おおいに満足	まあ満足である	あまり満足していない	まったく満足していない	どちらともいえない	無回答	満足している(計)	満足していない(計)
466	8	64	157	195	5	37	72	352
%	1.7	13.7	33.7	41.8	1.1	7.9	15.5	75.5

表19 現在の経営状態について

該当者	おおいに順調である	まあ順調である	少し苦しい	とても苦しい	どちらともいえない	無回答	順調である(計)	苦しい(計)
466	8	122	173	116	9	38	130	289
%	1.7	26.2	37.1	24.9	1.9	8.2	27.9	62.0

施術所は130カ所(27.9%)であった。一方、「少し苦しい」が173カ所(37.1%)、「とても苦しい」が116カ所(24.9%)であった。「少し苦しい」以下を「苦しい」とすれば、経営が苦しい施術所は289カ所(62%)で6割強を占めた。

以上のことから、施術料収入について「満足」している施術所が15.5%、経営状態が「順調」である施術所が27.9%と、両者間で相違をみた。一般的には、収入がよければ経営状態も順調であると思われるが、両者間で12.4%も開いた。これは収入面での不満が多かったこと、また収入が客観的な数値(金額)として表されることから評価が厳しくなったためではないかと思われる。

一方、経営が苦しい施術所が6割を超えたが、その主因は供給過多による需給バランスの不均衡によるものと思われる。柔整業においても鍼灸業と同様に、需要の掘り起こしが不十分な状態で施術者および施術所が短期間で急速に増えたことが、需給バランスの不均衡を招いた主因とみてよいであろう。

13. 今後の経営に対する不安

今後の経営に対する不安について尋ねたところ、表20に示すように「おおいに不安を感じている」が271カ所(58.2%)で最も多く、次に「まあ感じている」が127カ所(27.3%)であった。「まあ感じている」以上を「不安」とすれば、不安を感じている施術所は398カ所(85.4%)であった。一方、経営に不安をまったく感じていない施術所は11カ所(2.4%)と極めて少なく、「あまり感じていない」と合わせても50カ所(10.7%)と、不安のない施術所は1割強にすぎなかった。

このように、将来の柔整業に対する不安を感じている開設者は多く、あはき業と同様(約73~80%)^{9), 10)}であった。両者の不安要因を詳細に分析することが必要だが、根底に横たわる主要因は、上記したように需給バランスの不均衡であることは間違いのないであろう。

いずれにしても、柔整業、あはき業ともに将来に明るい兆しを感じられない現状であることは極めて深刻である。日本の伝統医療として営々と継承されてきた柔整業、あはき業

表20 今後の経営に対する不安について

該当者	おおいに感じている	まあ感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	どちらともいえない	無回答	感じている(計)	感じていない(計)
466	271	127	39	11	16	2	398	50
%	58.2	27.3	8.4	2.4	3.4	0.4	85.4	10.7

は、いわば日本の伝統文化でもある。それらが将来への展望を見通せない状況にある。この状況に手をこまねいて、右往左往するだけでは、両者とも先細りは必至である。

IV

単純集計結果のまとめ

本調査は、東京都と大阪府の大都市圏で開設している、柔道整復術を行っている施術所を対象とした業態の実態調査である。調査対象は、統計調査センター株式会社「iタウンページ整形ソフト」(Ver.3.03)を使用して、「柔道整復」「整骨院」を検索ワードとして検索し、ヒットした施術所2,400カ所から重複を除いた2,367カ所とした。

調査の結果、6割以上の施術所が、あま指療法、鍼灸療法、カイロ・整体術、リラクゼーションのいずれか、または複数を導入し、治療の幅を広げ、患者満足度を高めて、収入を上げる経営努力を展開していた。しかしながら、施術料収入に対して不満足な施術所が7割以上、経営状態が苦しい施術所が6割強であり、将来の経営への不安を抱いている施術所は8割5分と、厳しい現状であることが示めされた。

なお、本調査の対象のうち、開業20年未満の施術所が7割近くを占めていたことから、柔道整復師養成施設が増え始めた頃の開設者が多い可能性が高い。だとすれば、柔整師および柔整院の増加による経営環境の悪化の波をともに受けている開設者ととらえられる。そうした厳しい環境が、柔道整復術以外の療法の導入を図る方向へと彼らを誘導したのではなかろうか。

実際、柔整業の主たる業務は、捻挫・打撲・脱臼・骨折の急性症状に対する施術である。しかし、現実、業務に合った受療者を獲得することは非常に困難である。このことから、柔道整復術以外の療法を取り入れることで治

療の幅を広げ、受療者の要望に応え、満足度を高めようとした。特に、治療の幅を広げるために鍼灸療法やカイロ・整体を取り入れ、柔整師自ら鍼灸師の免許を取得、あるいは鍼灸師を雇用し、さらにカイロ・整体の認定資格などを取得したものと思われる。

しかし、このように経営努力を行っていても、将来の経営に対する不安が非常に高い。その理由を本調査では明らかにすることはできないが、療養費払いの審査の厳格化、さらなる柔道整復師の増加による競争激化、有害事象や不正請求に対する社会的な批判などのさまざまな要因が考えられる。

そして、何よりも本調査から浮かび上がってきたことは、柔道整復業とあはき業の競合である。これまで両者は伝統医療として互いの業務を尊重しながら、国民の保健に寄与し発展してきた。今もその関係は良好であると思うが、本調査結果が示すように、第三者的な観点からみれば競合しているように映る。

なぜ、そのような状況を呈するようになったのか。それは柔道整復業そのものに起因するものと考えられる。すなわち、修得した柔道整復術を思う存分に発揮できる対象が極めて少なくなったということから、柔道整復業はその業務において矛盾を抱えた療法となり、その状態で、これからも生きていかなければならないことになる。

柔道整復業の将来への不安を除き、大いなる発展を期するためには、あはき業との競合ではなく、柔道整復術が本来の特色をいかに発揮できる分野を開拓し、樹立することが急務ではなかろうか。

謝辞 本調査は公益財団法人東洋療法研修試験財団の平成28年度鍼灸等研究の助成により行われたものである。ここに東洋療法研修試験財団に深謝申し上げます。また、調査を実施した中央調査社ならびに調査に協力していただきました回答者の皆様方に心より謝意を申し上げます。

【参考文献】

- 1) 事件番号:平成9(行ウ)31. 事件名:柔道整復師養成施設不指定処分取消請求事件. 裁判所ホームページ 行政事件裁判例集より (http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/172/016172_hanrei.pdf)
- 2) 厚生労働省. はり師、きゅう師 学校・養成施設数、定員 年度別推移. 厚生労働省ホームページより (<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000109626.pdf>)
- 3) 厚生労働省. 平成28年衛生行政報告例(就業医療関係者)の概況. 厚生労働省ホームページより (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/16/>)
- 4) 矢野忠, 安野富美子, 藤井亮輔, 他. 我が国における鍼灸療法の受療状況について—10年間で受療状況は好転したのか—. 医道の日本 2013; 72(11): 202-13.
- 5) 矢野忠, 安野富美子, 藤井亮輔, 他. 我が国における鍼灸療法の受療状況について—主として年間受療率、一施術所当たり月間受療者数、認知状況、知る機会・媒体について—. 医道の日本 2014; 73(9): 131-42.
- 6) 矢野忠, 安野富美子, 坂井友実, 他. 我が国における鍼灸療法の受療状況に関する調査. 医道の日本 2015; 74(8): 209-19.
- 7) 矢野忠, 安野富美子, 藤井亮輔, 他. 我が国におけるあん摩マッサージ指圧、鍼灸、その他の手技療法の受療状況に関する調査(前編). 医道の日本 2016; 75(9): 96-101.
- 8) 矢野忠, 安野富美子, 藤井亮輔, 他. 我が国におけるあん摩マッサージ指圧、鍼灸、その他の手技療法の受療状況に関する調査(後編). 医道の日本 2016; 75(10): 108-18.
- 9) 藤井亮輔, 矢野忠, 坂井友実, 近藤宏. あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう全国施術所調査報告書2014. 社会福祉法人視覚障害者支援総合センター, 2014.
- 10) 藤井亮輔, 矢野忠, 近藤宏. あん摩マッサージ指圧の受療状況と当該施術所の実態に関する調査研究(厚生労働科学特別研究事業, H28-特別-指定-009). 2017. 報告中.

あの『アナトミー・トレイン』の著者、
トーマス・マイヤース氏も推薦！
エネルギーあふれる「大腰筋」を探求する1冊

コアを鍛えて内面から身心を改善
目醒める! 大腰筋

著：Jo Ann Staugaard-Jones
監訳：武田淳也
B5判 132頁 定価(本体3,200円+税)

脊椎と下肢をつなぐ人体で唯一の筋肉である「大腰筋」(腰筋)は身体の重心近くに位置し、生体力学の観点からも重要な筋である。中枢・末梢神経系にも影響を与える大腰筋の活性化に「コアを強化するエクササイズ」や「ストレッチエクササイズ」、さらにピラティスやヨガなど、多彩な方法を紹介。身体にかかわるすべての施術者に、新たな気付きをもたらす1冊。



医道の日本社 フリーダイヤル 0120-2161-02 Tel. 046-865-2161 ご注文 Fax. 046-865-2707
1回のご注文 1万円(税込)以上で梱包送料無料(1万円未満: 梱包送料 583円)